

02

省資源・省エネルギーで地球環境を守る

コーセーでは、環境マネジメントに関する国際規格「ISO14001」の基本的な考え方をベースに、CSR活動全般に関する意思決定を「CSR委員会」が行い、「CSR推進委員会」と傘下の環境ワーキンググループが中心となって環境活動を推進しています。

環境基本方針

- ① 生物多様性や環境保全に配慮し、省資源、リサイクル、省エネルギー、廃棄物の削減等に努めます。
コーセーは材料・資源の減量化の推進やリサイクル材料の積極的活用、廃棄物の容易な材料を活用した商品化、工場やオフィスなど全ての事業所での廃棄物の減量化と分別収集の徹底などを目指した企業活動を展開していきます。
- ② 常に環境負荷低減型の原材料の使用、および商品の研究開発に努めます。
環境汚染を防ぐために、特定材料や原料の削減、使用禁止等についてはガイドラインを作成して徹底しています。また、環境にやさしい原料や材料の研究開発も積極的に進め、商品化に生かしたり、包装材料の簡素化や軽量化に役立てています。
- ③ 環境関連の法律や規則を遵守し、環境保全に関する社会活動に積極的に参加します。
容器包装リサイクル法等を遵守するだけでなく、工場排出物等に関しては社内規制を強化して環境汚染の防止に努めるとともに、各事業所周辺の環境向上運動や地球環境保全事業への積極的支援なども行っています。
- ④ 環境保全活動を推進するための組織を整備し、継続的な活動を展開します。
1997年に地球環境委員会を設置、また2013年4月にはCSR委員会へと改変し、活動の推進と関係各部門への働きかけを組織的に行うとともに、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを積極的に導入し、実施しています。
- ⑤ 環境保全に関する教育、広報活動等を通して社員の環境に関する意識の向上をはかります。
活動の原点はまず社員からという考えのもと、職場におけるエコ改善事例や提案等の募集、社内報を活用した情報提供などを通じて、社員の意識向上に努めています。

コーセーの生物多様性への考え方

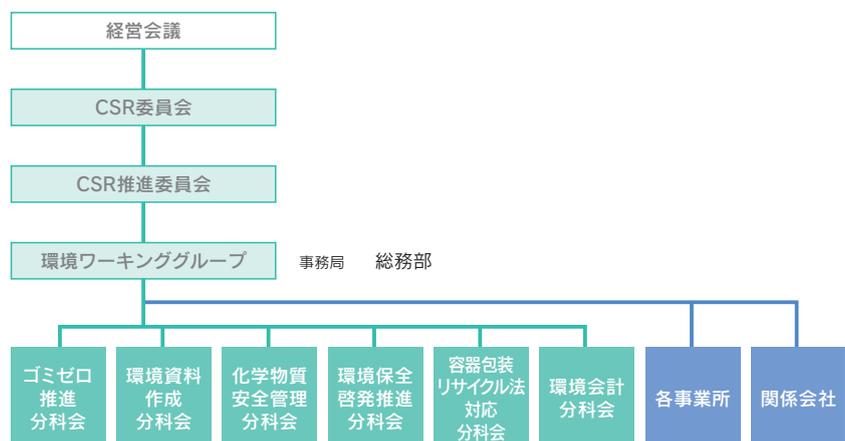
コーセーは、生物多様性からもたらされる恵みを尊重し、世界が直面する環境課題を自社にも関わるものとして、地球環境保全に取り組んでいます。事業活動においては、生物多様性と事業の関わりを把握し、影響の低減に努めています。さらに、社内的情報共有化を推進し、全社員に向けた啓発活動を行うとともに、社外へも情報を発信しています。

環境マネジメント

2013年より発足したCSR委員会、CSR推進委員会の下に環境ワーキンググループを設置し、全社的な環境マネジメントシステムを構築しました。これにより、事業活動の一環として、地球環境の保全に向けた取り組みをより一層強化してきました。

2014年度には、コーセーグループの環境負荷の全体像を把握することを目的として、海外を含む連結グループ会社全体の環境負荷の情報収集を充実させる取り組みを進めました。

環境マネジメントシステムの組織体制図



環境負荷低減のための活動

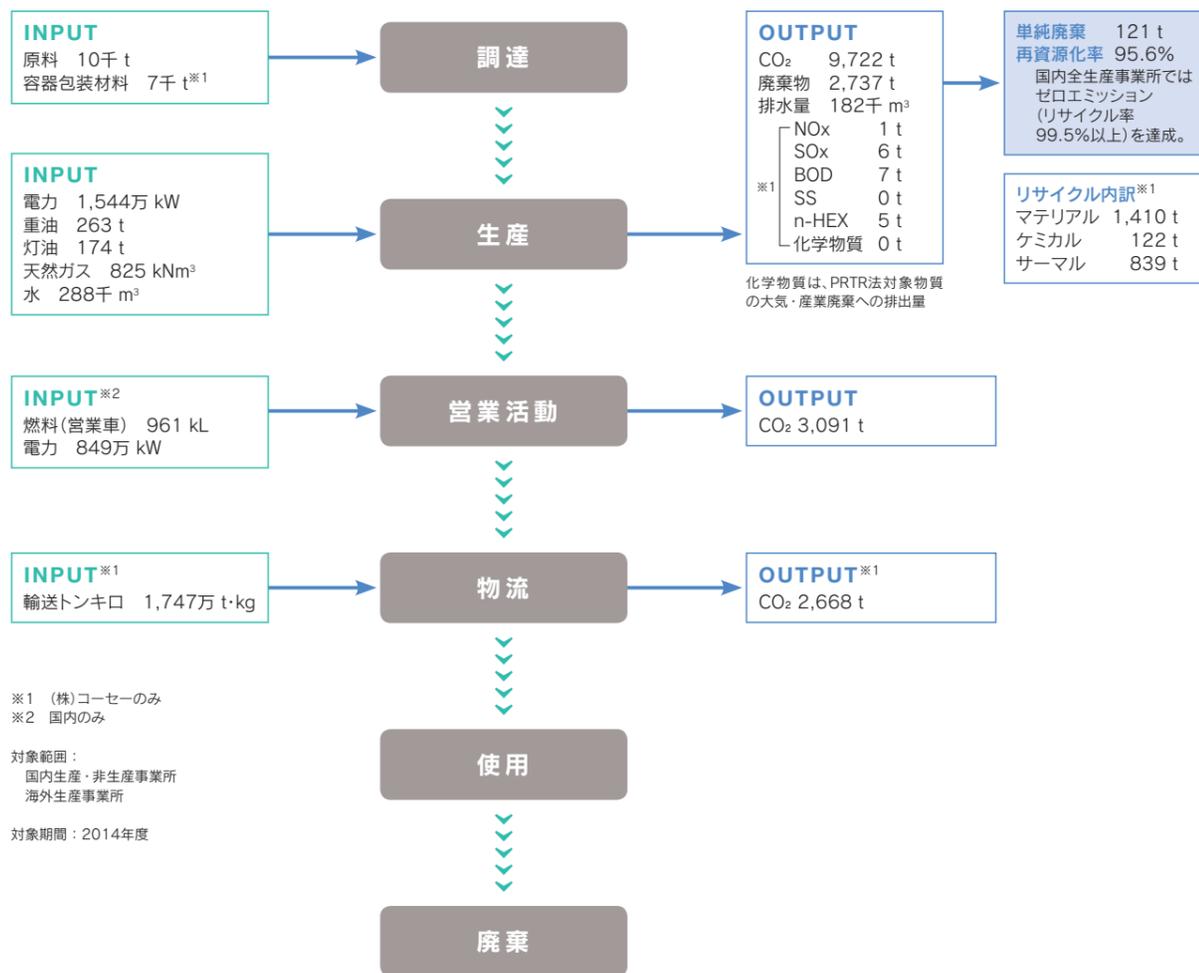
環境ワーキンググループと関連会社の株式会社アルピオンとで実施した、環境ミーティングで、データの連携を深めるための情報交換を行いました。また、海外の生産拠点である、中国にある高絲化粧品有限公司の杭州工場、台湾高絲股份有限公司の新竹工場についても、CSR委員会による環境データの収集を

開始しました。

こうして得られたコーセーグループの生産に関わるCO₂排出量は昨年のデータと比較して、売上高の増加(9.4%)に伴い9,040tから、9,722tへ7.5%増加しました。廃棄物量は4.9%増加、水投入量は2%減少しました。今後は収集データの拡充を進めるとともに、CO₂

量、水使用量、廃棄物量の3指標をベースに、グループ全体での環境負荷の低減を図っていきます。なお、これまでどおり環境会計については、国内製造部門の環境データをまとめ、webにて公開しています。

環境負荷全体像



生産部門におけるCO₂削減の取り組み

コーセーは環境への影響に配慮し、2000年度に群馬工場にてISO14001の認証を取得し、2002年度に狭山工場、2003年度に関係会社工場でも認証を取得し、生産部門全体で省エネ化を推進しています。2011年には、群馬工場にエネルギー使用効率を高めるコージェネレーションシステムを導入しました。天然ガスを利用して自家発電

するとともに、原動機から出る排熱を化粧品製造に有効活用することで環境負荷を低減しています。ほかにも、工場の使用電力は、空調負荷が高まる夏季にピークを迎えることから、工場棟屋根へのスプリンクラーや屋根遮熱塗装、窓への遮光ネット等を整備し、室温上昇の抑制に努めています。



2012年から、天然ガスを利用した環境にやさしいコージェネレーションシステムを稼働

環境負荷に配慮した容器・外装設計

コーセーでは、環境に配慮した商品開発や改良を常に模索しています。商品の紙製一個箱や、化粧品の使い方などを使用する能書、パンフレット、ダンボールなどには、基本的に再生紙を使用しています。さらに、能書を箱の外側、もしくは内側に直接印刷し、別紙を添付しない工夫をしています。

ポンプ付け替え容器や詰め替えパウチ容器の採用も、スキンケア・ヘアケア商品を中心に容器材料使用量の削減に役立っています。2014年には、スティックタイプの口紅「インフィニティセラムルージュ」でも、レフィルとホルダーを別売りにしました。

当社の中でも販売数量の多い「雪肌

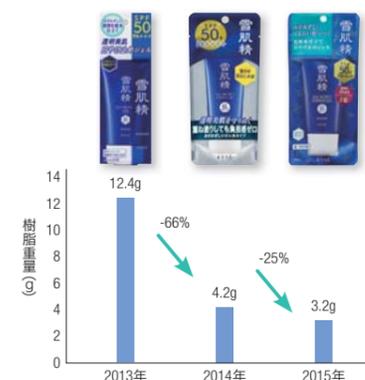
精」のサンプルテクトジェルでは、昨年一個箱からフィルム包装を採用することで大幅に樹脂量を削減しましたが、設計を見直すことで、今年もさらに低減しました(図)。この包装方法は、メイクアップブランド『ファシオ』等にも広く活用しています。

容器・外装は中身を安定に保つ機能とともに、化粧品の情報や世界観を伝える役割を担っています。今後も、お客さまのご要望や市場のニーズに配慮しながら、環境にやさしい商品の開発を進めていきます。



ホルダーを別売りにした口紅を開発

包装に使用した樹脂量の変化



オフィスからのCO₂削減

生産部門だけでなくオフィスにおいても、省エネルギーに取り組んでいます。例えば、コーセー本社では、環境省の推進しているCOOL BIZを毎年実施し、室内の冷房を抑えています。また、オフィスの照明を省電力化するため、ほぼすべてをLEDに交換しました。朝、出

社した従業員が自分のいるエリアのみを点灯するルールとし、不在時は人感センサーの導入により自動的に消灯するため、消し忘れに効果を発揮しています。また、パソコンについては、10分間動作がないと自動的にディスプレイが消灯するように設定しています。



オフィスの照明をLEDに交換